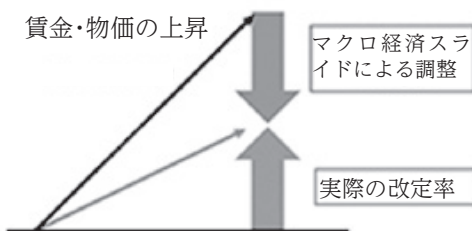


経営税務のヒント

賃金・物価の上昇



公的年金の優位性は、なんといっても物価・賃金スライド制です。つまり物価が上がればそれに応じて年金も上がりますから現在の価値が保存されるわけです。ところが、マクロ経済

スライドでこのメリットが破壊されてしまいました。マクロ経済スライドは、2004年の年金制度改正で導入され、賃金や物価の改定率を調整して緩やかに年金

公的優位性を破壊する

年金「マクロ経済スライド」ってなんだ？

顧問社労士 曾我 浩

の給付水準を調整する仕組みとされています。簡単に言えば物価が上がっても年金を上げない仕組みです。あまりにも複雑で一般の理解は進んでいません。

国会での審議も不十分

このマクロ経済スライドを温存したまま自民党、立憲民主党、公明党で話し合い国会でろくな審議もしないで国民の理解が進まないうちに通ってしまいました。

マクロ経済の怖いところはマクロ経済で抑えられた年金を基準に

また計算しますから繰り返すことにより現在の水準よりどんどん下がっていきます。これを2052年まで続けると言いますから現在の水準と比べ15%も下がります。

積立金の活用と高報酬者の負担で、安心できる年金を

年金は年間50兆円ほど使われています。大変な額ですが厚生年金厚の積立金は約5年分の290兆円、国民年金では3・8年分の14兆円も積立金があります。これをもっと活用すべきと思います。確かに社会保険料の負担は中小企業にとって大変です。厚生年金保険料は標準報酬月額に応じて保険料を支払っています。

しかし、上限があります。月額65万円で頭打ちです。保険料の上限は事業主分も含め月額11万8950円です。年収30億円と言われるソフトバンクの孫正義さんもこの額しか払っていません。孫さんが我々厚生年金の保険料18.3%支払えば億単位の保険料になります。

給付については収入の高すぎる人は一定程度しか将来の年金給付に反映しないようにしています。実際このようにしている国もあります。ともかく日本は消費税を上げ法人税を下げましたから大企業の内留保が600兆円にも膨らんでしまいました。この一部を使うだけでも日本は充実した年金制度が構築できます。